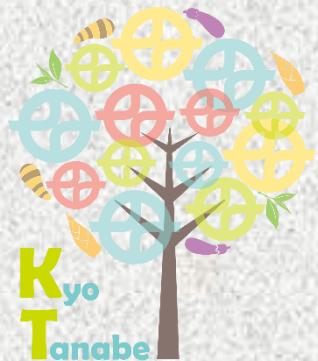


令和5年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会

京田辺市の社会教育の現状と 改善に向けた取組



令和6年(2024年)1月12日

京田辺市社会教育委員副委員長 姫路 桂子

第1章 京田辺市の概要



京田辺市の人口

全国的に少子高齢化が進む中、人口増加中

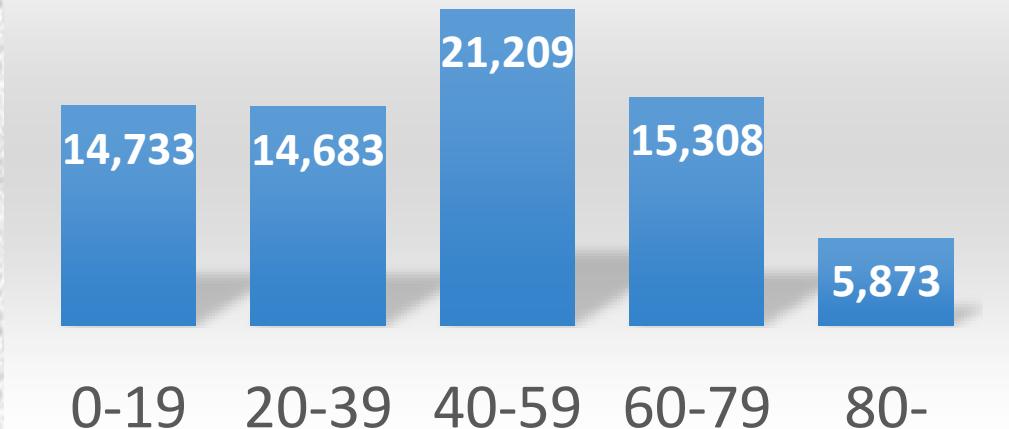


京田辺市人口推移



人口 71,806人(2023年10月1日現在)

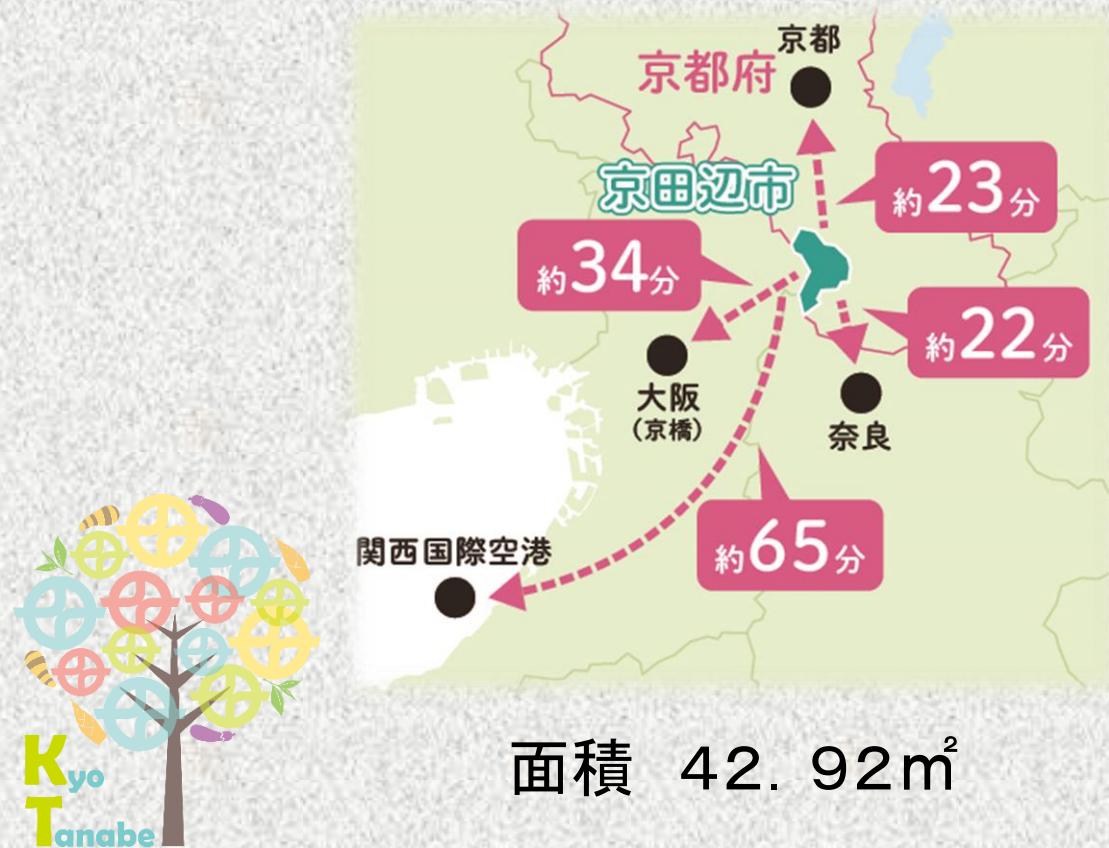
京田辺市年齢別人口



子育て世代が多い

京田辺市の環境

京都・奈良・大阪へのアクセスが良い



天王棚田

自然に親しめる ほどよい田舎感



松井山手周辺(八幡京田辺JCT付近)

京田辺市 社会教育委員の構成

社会教育の関係者

(文化) 京田辺市文化協会、(地域)京田辺市区・自治会長連絡協議会、(体育)京田辺市スポーツ協会、(体育)京田辺市スポーツ推進委員、(実践者)公民館利用者

学校教育の関係者

同志社大学関係、小中学校校長会

家庭教育の向上に資する活動を行う者

青少年問題連絡協議会、民生児童委員、市民ネットワークの会

学識経験者

大学教授

12名



第2章 社会教育委員会議の改革



以前の社会教育委員会議

- 層々たる面々...
- 固い...
- 重苦しい...
- 手が上がらない...
- 淡々と報告だけが流れていく...
- この会議 早く終わらせた方がいいの？
- 委員の顔と名前が一致しない！

※あくまで個人の感想です



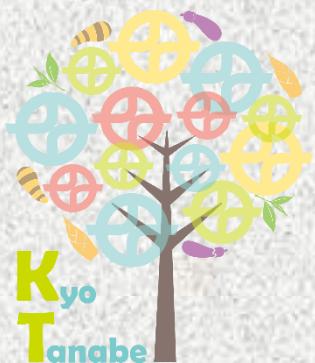
社会教育委員会議の改革

平成28年(2016年) 委員の大幅な変更による新体制



議論活性化　　委員の成長　　を目指し、改革スタート

- 改革① 懇親会の実施
- 改革② 研修会の実施
- 改革③ 観察の実施
- 改革④ グループ討議実施
- 改革⑤ 会議での発言機会創出



改革① 懇親会の実施

まずは、委員同士お互いを知ることからスタート
→懇親会・昼食会の実施



改革② 研修会の実施

市内他団体(校長会等)を交え、研修会主催



2016.10.13研修会『チャレンジ』
講師 中村真理氏(リオオリンピックホッケー女子日本代表選手)



2019.1.30研修会『現代の若者の特徴と育成すべき資質・能力』
講師 沖田悟傅氏(前山城教育局長)

改革③ 視察の実施

他市社会教育委員との交流、先端施設見学



2017.11.10 福知山市 市民交流プラザ福知山視察・福知山市社会教育委員との交流会

改革④ グループ討議実施

社会教育に関する課題(公民館等)をテーマに、
小グループ(5名程度×3)にて課題討議を実施
※各回30分～1時間程度(平成28年度(2016年度)～)

⇒より活発な議論、各委員の考え方相互理解



改革⑤ 会議での発言機会創出

研修会参加報告(平成28年度(2016年度)～)

- ・(山城、京都府、近畿、全国等)研修会参加者全員への報告義務(口頭)
→研修での緊張感、研修内容の再確認

自由スピーチ(平成30年度(2018年度)～)

- ・各委員出身母体での活動内容、経歴、社会教育に関する思いなど、テーマ自由
(任期中1人1回)
→各団体からの視点、各委員の経歴などの理解、
自身の立ち位置や考え方の整理



第3章 これからの京田辺市の社会教育についての検討

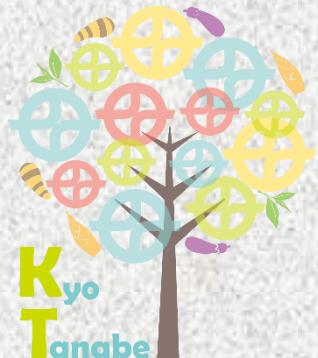


これからの京田辺市の社会教育について検討

令和4年度(2022年度)

「京田辺で今後展開することが望ましい社会教育について」
委員一人一人がレポートにまとめた
→委員が自身の社会教育への思いと共に会議で発表

委員の思いを6つに類型化し、意見交換を行う



1 教育の質の向上

- ・社会インフラ(公民館、同志社大学等)の活用
- ・若者世代に魅力あるイベント企画
- ・団塊世代に高度な専門講座の実施
- ・タイムリーな講座など魅力的な企画の実施
- ・参加者が充実感を得る持続可能な取組

- ・若い世代が参加しやすい地域行事がない
- ・学生が参加したくなる地域行事を増やす
- ・昔は横のつながりがあった
- ・コーディネーターが必要



2 学習機会の拡大

- ・社会教育、防災、福祉などの部局間の連携
- ・各団体や市の開催する講座・イベントの情報発信を強化
- ・魅力的で世代間交流ができる講座の実施



- ・1回から参加できる講座
- ・通りすがりでだれでも参加できる講座
- ・講座を動画配信
- ・各地区での講座実施
- ・学校や若い世代を取り込むコーディネーターが必要



3 福祉と社会教育

- ・高齢者の
「生きがいの創出」、「地域での新たな縁」、
「孤立防止」につながる講座、
児童とのつながり、福祉とのつながり、
デジタル格差解消

- ・ヤングケアラー問題など福祉の視点を
取り入れた社会教育と学校教育の連携



- ・各世代に合わせた情報発信
- ・高齢者への対面での情報提供



4 施設・体制(学習機会の拡大)

- ・博物館など社会教育施設を増やす、
公民館の規模を拡大する
 - ・オープンな会場の創設
 - ・市民参加型のイベント企画
 - ・社会教育施設の無料化
 - ・社会教育委員・公民館職員の増員と専門化
-
- ・イベントを積極的にできる施設
 - ・相談員の充実
 - ・施設運営は団体に任せたほうが
うまくいく

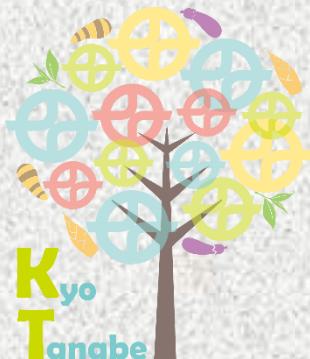


5 地域活性化

- ・地域のキーパーソン発掘
- ・指導者の質の向上
- ・学校外でのスポーツの場の提供
- ・公民館に常駐職員の配置



- ・公民館コーディネーターを常駐させる
- ・地域に貢献してもらえそうな人材を確保
- ・新興住宅地と旧村地域では課題が異なる
- ・コーディネーターの発掘

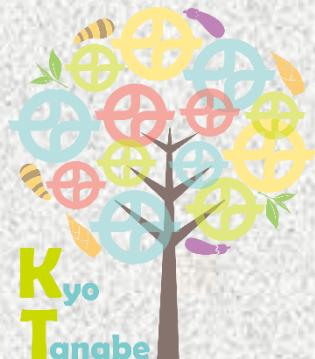


6 学校と社会教育の連携

- ・コーディネーターの配置
- 学校での実技指導
- 地域と学校をつなぐ
- 社会教育と学校教育の連携
- ・学校と地域との連携強化
- 部活動地域移行



- ・コーディネーターを有償にする
- ・教員退職者の活用



第4章 これからの京田辺市の社会教育



これからの京田辺市の社会教育のあり方

- ①子どもたちの体験学習機会の増加
- ②多くの市民に知識・教養を身に付ける機会の提供
- ③地域住民のつながりの強化



実現に向けての提案

①コーディネーターを育てる、発掘する



②地域と同志社の連携(地域と先生・学生とのつながり)を強化する

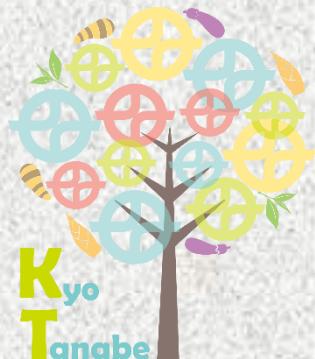
③地域住民同士のつながりを強化する



①コーディネーターを育てる、発掘する

どんな人？

- ・地域の有力者、子どもに生涯学習を教えてくれる人、各団体との調整や人集めができる人
- ・行政(市・学校)とのパイプ役



②③は、今後検討していきます

これからの京田辺市の社会教育の実現に向けての新たな取組の例①



2023.9.27 放課後子ども教室(カローリング)



2023.11.22 放課後子ども教室企画委員研修(スクエアボッチャ体験会)

これからの京田辺市の社会教育の実現に向けての新たな取組の例②



2023.9.13 放課後子ども教室(ダブルダッチ)
同志社大学ダブルダッチサークルの学生が指導



2023.12.6 放課後子ども教室(むかしあそび)
地域ボランティアが自作したどんぐりごまで指導

これからの京田辺市の社会教育の実現に向けての新たな取組の例③

今年度新たに小学校区で開催された夏祭り



2023.8.19 松井ヶ丘小学校区夏祭り星空の集い
(松井ヶ丘小学校区自治会連絡協議会主催)

これからの京田辺市



だれもが学び続けられるまち



つながりあえるまち



学びを生かせるまち



ご静聴ありがとうございました

